

「なすかしの森 ボランティア養成研修」報告

令和3年5月15日（土）～16（日）1泊2日

【目的・趣旨／概要】

ボランティア活動について理解を深めるとともに、ボランティア活動をするために必要な知識・技術を身に付ける。

また、今後のボランティア活動への意欲を高め、青少年教育施設や地域で活動できるボランティアを育成する。



【連携先】

・白河消防署西郷分署

【募集対象／実績】

＜募集対象＞高校生～社会人30名（先着）

＜実績＞大学生13名、高校生9名（計22名）

※先輩法人ボランティア5名（大学生3名、高校生1名、オンライン参加大学生1名）

【プログラム概要】

【1日目】令和3年5月15日（土） 天候：晴れ

【講義Ⅰ「青少年教育施設ってこんなところ（青少年教育施設の現状と運営）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 所長 金子 豊

当機構による青少年の定義や、青少年の実態についての講義を行った。当機構による調査結果や、法制度を基に、青少年教育施設の役割について理解することができた。また、当施設の目指す姿などについての話題もあり、当施設の教育的機能についても理解を深めた。

【演習Ⅰ「野外炊事をしよう（ボランティア活動の技術）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 事業推進係 古谷 洋祐、先輩法人ボランティア4名

先輩ボラの自主企画によるグループ対抗野外炊事を行った。作業分担や試行錯誤をしながら体験を通して十分なアイスブレイクとなった。活動を通して、ボランティアとして子供たちに対して注意すべき点や、実践で役立つ技術を習得することができた。

【講義Ⅱ「体験活動っていいことたくさん（青少年教育）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 次長 北見 靖直

青少年にとっての体験活動の意義や、今と昔の青少年を取り巻く状況などについて、参加者との対話を中心に講義を行った。また、よりよい体験活動とは何か、参加者同士で話し合いを行い、考えを深め合った。

【講義Ⅲ「ボラ活動って楽しいよ（ボランティア活動の意義）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 海野 裕太、先輩法人ボランティア5名

前半はボランティアについて各々のイメージをグループで伝え合った。後半では、グループで出た質問や疑問を、先輩ボランティアが自身の体験を交えながら回答した。参加者はボランティア活動の4原則について学ぶなど、理解を深めることができた。

【2日目】令和3年5月16日（日） 天候：曇のち雨

【演習Ⅱ「安心・安全のために（安全管理）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 次長 北見 靖直、職員4名、先輩法人ボランティア4名

野外炊事場で先輩ボランティアが演じる危険予知トレーニングを通して、危険未然防止のポイントを学んだ。また、実際に応急処置に当たれるように、胸骨圧迫による心肺蘇生法などについても実践を伴って学ぶことができた。

【説明 「こんな活動しているよ（青少年教育施設におけるボランティア活動）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 海野 裕太、先輩法人ボランティア4名

実際に法人ボランティアとして活動することになる教育事業や、機構の法人ボランティアの制度についての説明を行った。また、当施設がボランティアの学生に求めていることなどについての理解も深めることができた。



【成果】

- ・福島大学や信州大学との連携し、授業で広報活動を行うことができたため、多くの参加があった。
- ・先輩ボランティアが5名参加し、自主企画や質問コーナーを担当することで、参加者の不安軽減だけでなく、先輩ボラの成長につながった。
- ・各講義・演習や事業紹介で当施設職員が多く参加したことで、当施設でのボランティア活動に対して、前向きに考えるきっかけとなった。

《参加者の声》

「野外炊事を通して他の参加者と仲良くなれた。」「1つ1つの講義や演習が充実していた。」「先輩ボランティアに色々聞けて不安がなくなった。」「職員・スタッフが話しやすかった」等

【課題と方策】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大状況にあり、当初30名の参加者が22名まで減ってしまった。また、県教委の感染防止に関する通知に対応するため、高校生は日帰り2日間の参加で対応した。
- ・3密を避けるために、グループワークやペアでの活動に制限があった。それでも効果的な交流が図れるように、プログラムをブラッシュアップしていく必要がある。

国立那須甲子青少年自然の家【作成】企画指導専門職：海野 裕太